

地域政策研究センター地域協働研究（教員提案型）研究課題一覧

	研究課題名	研究の概要	研究代表者			研究区分	研究分野	研究フィールド
			所属	職	氏名			
1	「見守り」を核とするICTを活用した医療・福祉連携策の検討	東日本大震災の被災地では、社会的孤立を防ぐための「見守り」やコミュニティの再構築が社会的な課題となっている。また、被災地の医療体制は、壊滅的な被害を受け、その再構築が喫緊の課題となっている。岩手県の医療体制は、震災前から医療機関や専門職の数が不足しており、在宅医療における社会福祉との連携が有効な地域であり、そのために住民と医療・福祉機関や専門機関どうしをつなぐ情報ネットワークの形成が有効である。そこで、本研究は、「見守り」を核とする被災地の在宅医療・福祉のICTを活用した連携策を検討することにより、岩手県内の医療・福祉の連携策に資することを目的とするものである。発災後、研究チームでは、釜石市医師会や社会福祉法人愛恵会の協力を得て、鶴住居の仮設住宅団地において、「おげんき発信」と血圧等の健康データを連携した見守り体制を整備し有効性を検証してきた。本研究では、その検討をパイロットとし、さらなる展開策を行政関係者や医療関係者に周知しながらヒアリングを行う等により問題解決方を明らかにするものである。	社会福祉学部	教授	小川 晃子	震災復興研究	暮らし分野	釜石市鶴住居及び被災地を中心とする岩手県全域
2	『語り部くん』携帯端末による観光客行動自動集計及び地域経済振興の研究	遠野市観光協会は観光スポットを国内外観光客に紹介するために、岩手県立大学の研究グループが開発したユビキタス情報端末（愛称：語り部くん）を導入した。早期の震災復興を実現するために、観光客消費トレンドの正確把握が重要である。本研究では、既に導入したユビキタス携帯情報端末に操作履歴記録機能を追加し、観光客の観光行動履歴を正確に集計するシステムを提供する。観光客の行動パターンを高い精度で統計・分析を行う。観光関連の商業施設配置及び営業活動の改善に正確な情報を提供し、地域経済の発展及び観光客満足度の向上を実現する。	ソフトウェア情報学部	准教授	蔡 大維	震災復興研究	産業経済分野	遠野市
3	東日本大震災被災地域住民のこころの健康に関する研究－釜石市健康調査の分析による被災後の市民の精神的健康の実態把握－	東日本大震災では、多くの人命が失われ、多くの家屋が流出し、地域自体が流されて、人々は見慣れた故郷を失った。これらの被害は目に見える損失だけではなく、人々のこころに大きな影響を及ぼした。東日本大震災は被災地の人々にとって命の危険をまざまざと感じさせたトラウマティック・ストレスであり、その影響としてはposttraumatic stress disorder(PTSD)があげられる。しかし、トラウマ被害後の影響は必ずしもPTSDに代表される精神障害だけでない。近親者との死別による悲嘆や、仮設住宅への居住によるストレス、地域社会の変化によるストレス、仕事が見つからないことによるストレスなど、その影響は多岐にわたる。そこで、本研究では東日本大震災が人々のメンタルヘルスに及ぼした影響を、岩手県釜石市に居住する全市民を対象として、トラウマティック・ストレス、近親者との死別による悲嘆、抑うつ、日常生活のストレス、行動の変化といった観点から明らかにする健康調査を行い、適切な支援について提案をする。	社会福祉学部	准教授	中谷 敬明	震災復興研究	社会・生活基盤分野	釜石市
4	若者の支援を通じた社会起業家育成機会の創造とシステム構築	東日本大震災以降、ボランティアへの参画など被災地支援の取り組みの中で若者の力が発揮される場面が増えている。彼らの活力を被災地の復興に、またそうした活力を社会的課題の解決に結び付けていくことは、今後のまちづくりを考える上で重要な要素となる。本研究は当該問題意識に基づき、『被災地の復興、東北の未来のために何かやりたい』と願う若者の発想を具現化させるには、公的・非営利・営利各セクターがどのような関与・支援すべきか、その概念及び操作モデルを一般化するため、若者世代の人材発掘支援を行う「アショカ・ジャパン」及び若者世代の活性化を研究テーマとする「盛岡市まちづくり研究所」との協働により、ワークショップやインタビューなど定性的手法を主体とした課題解決型調査を実施するものである。	総合政策学部	准教授	西出 順郎	震災復興研究	社会・生活基盤分野	盛岡市ほか
5	健康支援の専門家である県内看護師がつくる被災地住民の居場所づくりに関する実践研究	本課題は、東日本大震災の被災地に居住する住民の居場所づくりを、健康支援の視点のもとに展開することをめざすものである。被災による通院先の移動に伴う健康管理の困難さ、仮設住宅での被災住民同士のつながりの希薄化、孤独死等の課題に対し、被災地の健康観・食生活等、その風土を熟知した健康支援の専門家である県内の看護師の活動展開が期待されている。県内の看護師に協力を得て、被災地の一地区において、血圧測定やミニ講話などの定期的な集いの機会を設けながら、住民の居場所づくりに関する実践活動を展開する。その一連の文字記録ならびに実際の集いの会の様子等を合わせ、研究者がその活動を評価し、今後の被災地における健康支援を視点とした居場所づくりに関する示唆を提示する。	看護学部	教授	三浦 まゆみ	震災復興研究	社会・生活基盤分野	大槌町
6	岩手県の震災復興状況に関する長期モニタリング調査と質的情報の解析手法の開発	岩手県では、東日本大震災津波被災からの復興状況の把握のため、各種調査を実施することとしている。いずれも長期にわたる復興期間を通じて実施され、調査実施・集計・分析・結果の公表についてこれまでにないノウハウを必要としている。特に、「いわて復興ウォッチャー調査」は調査対象は小さいながらも、四半期に一度の高頻度で実施がなされるパネル調査であり、また回答に自由記載が多いところから質的データ解析の手法開発が望まれている。本研究は、本学の有する社会調査関係のノウハウを生かして岩手県の実施する調査の解析を進めるとともに、新たな質的データ解析の方法論を確立することを目的とするものである。	総合政策学部	教授	高嶋 裕一	震災復興研究	社会・生活基盤分野	沿岸被災地
7	津波の記憶を忘れないためのWeb上の津波資料館の構築	東日本大震災における津波の惨事は、時間が経過するとともに、人々の記憶から忘れ去られて行く可能性が大きいため、この記憶を後世に語り継ぐことは急務である。作家の吉村昭は、著書「星への旅」の取材中に出会った人々から聞いた明治29年の大津波の話から、埋もれかけていた資料を調査し、再度取材し、「三陸海岸大津波」を書き、警告を発信した。田野畑村では、吉村昭文学資料館の物理的な設置を将来行う計画がある。これに先駆け、本研究課題では、インターネット上に津波資料館を構築し、風化してしまう様々な形式の記憶を集め、後世に伝えていくことを目的とする。これにより、従来の物理的な資料等を、長く後世に伝える形に整え、被災地からの情報発信としたい。さらに、わが国だけでなく、地球規模で情報提供や警告を持続的に発信して行くための設計や構築を行う。このために、情報投稿の容易性や操作性も視野にいれたシステム開発を行う。	ソフトウェア情報学部	教授	村山 優子	震災復興研究	社会・生活基盤分野	田野畑村

	研究課題名	研究の概要	研究代表者			研究区分	研究分野	研究フィールド
			所属	職	氏名			
8	ソーシャルメディアを対象とした大震災に関する被災女性ニーズ抽出の研究	本研究では、オンライン掲示板などのソーシャルメディアを対象とし、東日本大震災において被災した女性支援のための課題抽出基盤の構築を目指す。大震災後、女性は介護や家事・育児、求職活動など、これまで以上に多くの課題に直面した。こうした困りごとは時にオンライン掲示板等へ書き込まれ、NPO法人の支援などによって解決が試みられたが、より効率的な課題解決のためにはIT技術の活用が重要となる。我々はソーシャルメディア解析・話題抽出技術(データマイニング技術)を適用し、被災女性の書き込みから課題を抽出分類することで、解決可能なソリューションへつなげる「被災女性向け課題抽出基盤」の開発を行う。被災地にて活動中のNPO法人の協力を得て、ソーシャルメディアデータを収集し、データ解析を行うとともに、その結果をNPO法人に評価してもらい、手法の有効性を評価する。技術開発だけでなく、フィールドワークを行う点が本研究の特徴である。	ソフトウェア情報学部	准教授	バサビ・チャクラボルティ	震災復興研究	社会・生活基盤分野	県内(特に沿岸部、盛岡市内)
9	北上産黒大豆「黒千石」の栄養機能性と加工食品への応用に関する研究	大豆は栄養成分に富み、わが国の伝統的な食品として日本人の健康に寄与してきた。大豆類の中でも黒大豆は種皮中に機能性成分であるポリフェノールを多く含む事が知られている。「黒千石」は一時生産が途絶え、幻の黒大豆と呼ばれた希少種であるが、原産地の北海道で栽培が復活するとともに、原産地から本県の一部の地域に譲渡された。現在でもその生産量は少なく、その販路も限られている。本研究は、生産者である北上南部大豆生産組合と本学教員との協働研究であり、将来的に北上産「黒千石」の販路拡大を目指すものである。本年度の研究はその基礎的研究として、「黒千石」の栄養価や栄養機能性を動物実験により検討する。併せて「黒千石」の調理特性を明らかにし、その特性を活かした調理加工品の施策検討を行う。「黒千石」を用いた調理の提案や加工食品の開発を通して、「黒千石」の利用性や価値観を高めることにより、販路拡大につなげる足掛かりとする。	盛岡短期大学部	教授	千葉 啓子	一般課題研究	環境・資源・生活科学	北上市